

2007年能登半島地震の震源に関するエンベロープ・インバージョン

Source envelope inversion of the 2007 Noto Hanto earthquake

Petukhin Anatoly[1]

Anatoly Petukhin[1]

[1] 地盤研究財団

[1] G.R.I.

経験的に得られた小地震のエンベロープ・モデル（地球惑星科学関連学会の2004年合同大会の発表参照）を用いて、高周波数のそれぞれ1-2, 2-4, 4-8と8-16 Hz領域で震源の発生エネルギー分布をインバージョン解析した。用いたデータはK i K - n e tの記録である。インバージョンの前に、地域の小地震を利用してスペクトル・インバージョン法によるサイト特性を求め直した。予備の結果としては、エネルギーの発生分布が既往の滑り分布とほぼ一致していると同時に特徴も見られる。